



卒業する子どもたちに

**ご質問** 私は、“地図”を苦手を通してきました。卒業をひかえた子どもたちに、地図をめぐる“これだけは…”ということを、具体的に示してほしいのですが…

**回答者** 東京学芸大学 名誉教授 次山 信男

地図帳は、いつでも戻れる“学びの場”

卒業時に近づくと、あれもこれもと子どもたちに、もっと指導しておかなければと思うことが浮かんできます。相談室(20)(2014年度2学期号)でも、本シリーズのなかから“索引”、“記号・色”、“縮尺”、“鳥瞰図・断面図”の指導について、まとめて再録してきました。本号では“町の新聞づくり”、“等高線”、“地図と資料”の指導をめぐる、ふり返ってみたいと思います。

①ときには、“ない”という事実も

「町のようす」の学習で、「町の新聞づくり」をすすめた3年生のNさんは、町をまわっていろいろな事実を追っていくうちに「交番がない」ことをつきとめたのです。2年生の学習で、「町には交番があって人々のくらしの安全を守ってくれている」ことを学習してきたNさんは、この事実には驚くとともに、「町の新聞」の重大記事になると思ったのです。

この「新聞づくり」には、記事に、それを説明する資料として、“地図”か“図表”を添えるという、先生とみんなで決めた約束があります。そこに“ある”という事実は地図化できますが、“ない”という事実は地図化できません。そこで、Nさんは、横軸に観察できた“事実”をとり、縦軸に1丁目から5丁目までの“地域”をとる“図表”を考え、そのなかに観察できなかった交番を位置づけ×××と入れ、「八雲には、交番がなかった!」

◎八雲にはこうばんがなかった!

◆わたしの町は前はふすま町といましたが、こんど八雲とかわりました。町の新聞をつくるために、町をたくさんあるいてみたら、八雲にはこうばんがないことがわかりました。いままで、たいがいどの町にもこうばんはあるとおもっていたので、ちょっとへんだなとおもいました。この表は、そのときしらべたのを一丁目、二丁目、三丁目、四丁目、五丁目、にわけてかいたものです。一丁目と四丁目はずいぶんちがっていることがわかるでしょ。

バスとあり	ビル	みせ	ゆうびん局	区やくしよ	工 場	しよぼう	ちゆう車場	お寺	う え 木	こ う ぼ ん	学 校	
ある	のけんちく	たくさん	ゆうびん局	小さい	工場			八雲	東光寺	Xなし	都立大学	一丁目
ある		ふつう	ゆうびん局	すり	工場			ひかわ	こんぞう	X	八雲小	二丁目
ある	コーポ	たくさん		フラン	カンパ	しよぼう	ちゆう車場		う え 木	X	宮前小	三丁目
ある		少し	老人ク	しゅつち				おいな	う え 木	X		四丁目
ある	キング	少し	ゆうびん	材り	いんさ	たべもの		ふすま	う え 木	X		五丁目

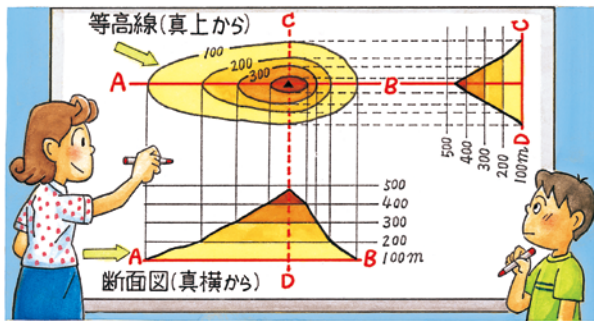
2008年1月号より

と、題をつけていったのです。そして、改めて「1丁目と4丁目は、ずいぶんちがう」という事実にも気づいていくのです。

②真上から見た地図“等高線”を、断面図で真横から見る!

地図は、真上から見たその土地のようすをいろいろな約束ごとを使って表しています。同じ高さのところ(点)を線(等高線)で結んで、その土地の高低のようすを表しているのもその一つです。

日常、私たちは、土地の高低を横から見ていますから、等高線のしくみになれないと、



2009年9月号より



地図からその高低の実際を想像することがなかなかできません。ですから、「地図では、山の形がよくわからない!」という子どもの声が、この指導のチャンスです。

地図の「等高線」を利用して、土地の高低を二方向から見た図(断面図)を描かせてみてはいかがでしょうか。

まず、先生が黒板に等高線図のA—Bを結ぶ線の断面図を描いてみせます。そして、先生がどのようにしてそれを描いたかをみせてから、子どもたちに同じ等高線図のC—Dを結ぶ線の断面図を描かせます。先生がたどった手法にそって作業をすすめる子どもだけとは限りません。なかには角度が変わっただけでつまずく子どもも出てくるでしょう。

個別にヒントを与えながら挑戦させてみてください。そして、まず、描いた断面図に色をつけ、つぎに等高線図にも色をつけていく作業を加えてみてはどうでしょう。地図が子どもたちにぐんぐん音をたてて近づいてくるのではないのでしょうか。

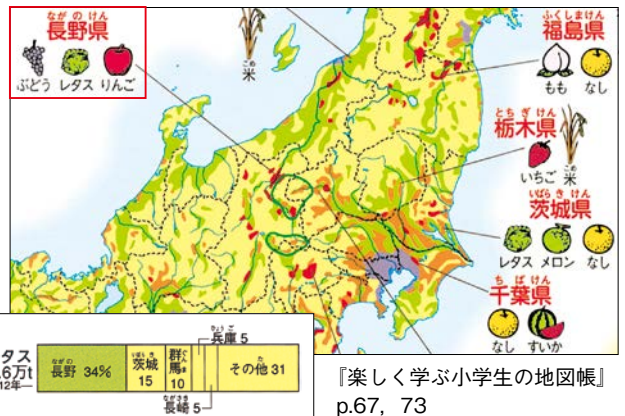
### ③「八ヶ岳・野辺山原のレタス」を例にして—

『楽しく学ぶ小学生の地図帳』(以下、地図帳)を開くと、基本図「中部地方」の図幅(p.31)に資料図②「高地のくらし」(鳥瞰絵図)をのせています。そして、この図には副題として「八ヶ岳山ろくの野菜づくり」が添えてあります。この図を見た子どもたちは、この野菜の生産が日本のなかでどれくらいの位置にあるのかが知りたくなります。そこで、地図

『楽しく学ぶ小学生の地図帳』p.31

帳の「もくじ」(p.1)で見当をつけ、ページを追ってまいります。

まず、地図帳p.67 ①「土地利用とおもな農産物の産地」(分布図)で確かめます。確かにレタスは長野県の特産品です。ここまできると、どうしてもその数量的な位置も確かめたくになります。地図帳p.73~74「日本のすがた」の⑧「おもな農産物の生産」(帯グラフ)で、それをつきとめます。2012年の統計では、全国のレタスの生産56.6万tの34%を1位の長野県が占め、2位の茨城県の15%を倍以上引き離しているのですから…。



『楽しく学ぶ小学生の地図帳』p.67, 73

しかし、これで「高地における特色あるくらし」を手中にしたわけではありません。この活動が土台になって、さらに「レタスの作物暦」などを通して、高地における農作業のすがたやくらしなどを追うという、地図帳以外の資料にも触手をのばす道もひらけてくるのではないのでしょうか。